

# 「核同盟」擁護も「対話必要」

## 核禁条約会議 NATO加盟3国発言

【ウィーン＝桑野白馬】 に加わっていない諸國のオーストリアの首都ウィーンで開かれている核兵器禁止条約第1回締約国会議では2日目の22日、オブザーバー参加しているドイツなど北大西洋条約機構（NATO）加盟の3カ國が発言しました。各國はロシアのウクライナ侵略を理由にNATO「核同盟」の必要性を擁護する一方、「建設的な対話」を進める姿勢を示しました。

ドイツは「核抑止を含め NATO加盟國としての立場と一致しない」条約には参加できないと表明。ロシアによる核威嚇に関し、核使用を禁止する規範の強化が必要だと指摘し、条約の賛否を越えて「肩を並べて協力することが出来る」としました。その上で核廃絶に向けて「心を開き、誠実に対話することが必要不可欠だ。そのためにドイツはここににいる」と発言しました。

ノルウェーは条約への署名や批准はしないと表明しましたが、核兵器の非人道性の議論は重要だと主張。核保有・関連國と非保有國の二極化を避けるため、「すべての國が建設的な対話を行うよう」要請しました。



発言するドイツ政府代表＝22日、ウィーン（桑野白馬撮影）

オランダは、核保有國が参加しない条約に署名する意志はないとしつつ「開かれた率直な議論が必要だ」と指摘しました。